

## 第 13 回軽金属学会功労賞

軽金属学会功労賞は、永年にわたり軽金属学の発展ならびに当会の活動に顕著な貢献をした者に贈られる。軽金属学会功労賞選考委員会（委員長 里 達雄）の審査を経て平成 23 年 2 月 22 日（火）に開催された第 108 回理事会において慎重審議の結果、軽金属学会特別功労賞に浅見重則君、軽金属学会功労賞に新瀬 誠君、長谷部光弘君の授賞を決定、第 120 回春期大会第 1 日目の 5 月 21 日（土）に名古屋大学において表彰式を挙行了。

### [軽金属学会特別功労賞]

受賞者 浅見 重則 君 古河スカイ株式会社 技術顧問 昭和 21 年 5 月 20 日生（64 歳）

#### 受賞理由



浅見重則君は、40 年にわたりアルミニウム材料の研究開発と製造に携わってきた。大学院時代にはアルミニウム合金の時効析出に関する研究を精力的に行い、古河電気工業株式会社入社（1974 年）後も同合金の組織制御を中心に研究開発を行った。これらの成果は本学会の講演大会および「軽金属」誌に発表され、この間に軽金属論文賞を受賞した。また、研究部会発足（1977 年）と同時に casting・凝固部会委員となり、部会報告書の取りまとめを行うなど部会活動の活性化に寄与した。

本学会の理事就任後は、副会長ならびに各種委員会の委員長および委員として幅広く学会の運営・発展に尽力した。まず、企画委員長として様々な技術分野のシンポジウムの実施、「状態図と組織」に関するセミナーの新たな開催、および「軽金属基礎技術講座」の再開を行った。さらに、人材育成 WG においては副委員長として、「軽金属希望の星賞」、「軽金属女性未来賞」の創設等に携わった。これらは、現在の本学会の人材育成活動のベースとなっている。

新たに設置された参与会では初代委員長として、軽金属利用企業との関係緊密化を推進して本学会の基盤強化を図り、国際交流委員会では副委員長として ICAA12 およびアジアフォーラムの開催を推進した。また、総務委員長として公益法人制度改革に対応し、一般社団法人への移行のための「定款の変更の案」と関連書類の作成、および新法人化に必要な規程類の作成・改訂を行い、スムーズな移行申請に主導的役割を果たした。

以上の功績は極めて顕著であると認め、ここに軽金属学会特別功労賞を贈る。

#### 学会活動

1970 年 軽金属学会入会，現在に至る。  
2001～2011 年 理事  
2003～2005 年 企画委員会委員長  
2005～2007 年 副会長  
2005～2009 年 参与会委員長  
2008～2009 年 人材育成検討 WG 副委員長  
2009～2011 年 総務委員会委員長，国際交流委員会副委員長

## [軽金属学会功労賞]

受賞者 新瀬 誠 君 YKK AP 株式会社 主幹技師 昭和 26 年 8 月 14 日生 (59 歳)

### 受賞理由



新瀬 誠君は、1974 年に YKK AP 株式会社の前身である吉田工業株式会社に入社し、以来一貫してアルミニウム合金製品の製造と開発に取り組んできた。とくに 1990 年には、6063 アルミニウム合金高速水平連続鋳造技術の開発にプロジェクトリーダーとして携わり、実用化に成功、特許取得に加え、その成果を 1992 年 ET (シカゴ) にて発表し賞賛を浴びた。現在は材料品質向上プロジェクトリーダーとして、製品のさらなる品質改善を目標に、日夜第一線で活躍している。

また 1996 年からは軽金属学会北陸支部の幹事として、支部事業を通して支部所属の関連企業との技術開発力の基盤強化に精力的に取り組む、若手技術者の育成にも力を注いでいる。加えて富山で開催された 2000 年と 2007 年の全国大会では、実行委員会委員として貢献し、さらに企業展示や企業見学会の実施における中心的役割を果たし、大会を成功裏へと導いた。2005 年からは本学会評議員として、激務の中、本学会の運営に対して積極的に取り組んでいる。

以上の業績・活動は、本学会の発展に極めて大きく貢献したと認められ、ここに軽金属学会功労賞を贈る。

受賞者 長谷部 光弘 君 九州工業大学 名誉教授 昭和 22 年 1 月 27 日生 (64 歳)

### 受賞理由



長谷部光弘君は、永年にわたって、材料工学の教育、研究に努め、材料組織学の分野において、多くの成分から構成される合金が、その組成や温度によってどのような状態になるかを、2成分や3成分系までの情報からコンピュータ・シミュレーションによって予測するという計算状態図の研究を行ってきた。その成果として、コンピュータ・シミュレーションに必要な2成分や3成分の数値パラメータをデータベース化し、多くの合金系について、いろいろな条件下における状態の予測を可能とし、合金の開発研究が効率よく行えるようになるなど、軽金属分野はもとより、広く材料工学の発展に貢献した。

学会活動では、永年九州支部評議員を務めるとともに、2005年5月から2009年5月まで軽金属学会評議員を務めた。特に2004年7月から2006年7月までは九州支部長を務め、この間に北九州国際会議場で開催された軽金属学会第110回春期大会では実行副委員長として、実質的な講演大会の運営を担当し、成功させた。このように軽金属分野での学術的な貢献に加え、学会活動を永年にわたって支えており、学会の発展に大きく貢献した。

以上の功績は極めて顕著であると認め、ここに軽金属学会功労賞を贈る。